

〈報告〉

スポーツ環境とスポーツアイデンティティに関する研究

谷 宇*・野川 春夫*

Sports environment correlates of sports identity and sports participation

Gu YU* and Haruo NOGAWA*

1. 目 的

中国体育总局の「青少年体質健康調査」(2002)によると、スポーツ参加の減少に伴って、青少年の肺活量低下、肥満率増加などの問題が発生している。Lau et al. (2005) は、子どものスポーツ参加を解明するためには、スポーツ参加動機や阻害要因を基にした従来の研究アプローチは、子どもの回答が表面的になり、堅実な理論ベースに欠ける傾向があるため、スポーツアイデンティティ理論が有効なアプローチであると示唆している。しかしながら、スポーツ環境がアイデンティティの形成過程に影響を及ぼすことを明らかにした研究は少ない (Danielson, Lorem, and Kroger, 2000)。本研究は、スポーツアイデンティティを規定するスポーツ環境要因を明らかにする上で、経済格差がスポーツアイデンティティにおよぼす影響を明らかにすることを目的とする。

2. 仮説の設定

- 1: 中国においてスポーツ環境が青少年のスポーツアイデンティティを規定する。
- 2: 地域格差とスポーツアイデンティティには関連がある
- 3: スポーツアイデンティティの高い中学生ほどスポーツ参加頻度が高い。

3. 結 果

1) 表3に示したように、スポーツ環境項目の「両親 ($\beta = .40$)」、「仲間集団 ($\beta = .37$)」、「マスメディア ($\beta = .16$)」は有意差が認められ、仮説1は部分

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科
Graduate School of Health and Sports Science,
Juntendo University

表1 研究方法

予備調査	2008年7月17日 (中国遼寧省瀋陽市C中学校)
本調査	2008年9月1日~9月13日(中国遼寧省朝陽市のA中学校と大連市のB中学校)
調査対象者	12~15歳の中学生
調査手順	中学生の授業間の休みの時間と昼休みの時間を有効に使って、クラス担任の協力を得て、直接配布して、回収した。
回収数	予備調査: 60部 (男子生徒30部, 女子生徒30部) 本調査: 朝陽市のA中学校160部 (男子生徒70部, 女子生徒90部) 大連市のB中学校 (男子生徒73部, 女子生徒64部)
調査内容	スポーツアイデンティティ項目 (Brewer, Van Raalte and Linder, 1993) スポーツ参加項目 (Kowalski, Crocker, Donen and Honours, 2004) スポーツ環境項目 (Lau et al., 2005)
統計方法	重回帰分析, 二元配置分析, 相関分析

的に支持された。

- 2) 二元配置分散分析によって、都市間の有意差が認められなかったため、仮説2は支持されなかった。
- 3) 重回帰分析によって、スポーツアイデンティティはスポーツ参加を規定していることが明らかとなった ($\beta = .68, R^2 = .47, p < .001$)。また、相関分析によって、スポーツアイデンティティとスポーツ参加には正の相関 ($r = .70$) があるため (表2参照)、仮説3は支持された。

4. 考 察

スポーツ環境とスポーツアイデンティティ:

①両親: 本研究の結果は Lau et al. (2005, 2006) の

表2 スポーツ環境, スポーツアイデンティティおよびスポーツ参加の相関係数

	親	仲間集団	学校	コミュニティ	マスメディア	スポーツアイデンティティ	スポーツ参加
親	—						
仲間集団	.70**	—					
学校	.56**	.64**	—				
コミュニティ	.57**	.60**	.53**	—			
マスメディア	.50**	.60**	.49**	.58**	—		
スポーツアイデンティティ	.74**	.75**	.50**	.50**	.58**	—	
スポーツ参加	.64**	.64**	.52**	.44**	.47**	.70**	—

** p<.001

表3 スポーツ環境とスポーツアイデンティティの重回帰分析結果のまとめ

	B	Std. Error	β
仲間集団	.30	.04	.37**
両親	.40	.04	.40**
マスメディア	.14	.04	.16**

** p<.001, * p<.05

親がスポーツアイデンティティに影響をおよぼさないという知見は異なり, スポーツアイデンティティに最も強く影響している. Lau et al. (2005, 2006)の研究対象者はイギリスと香港の中学生のため, 社会文化的な違いがあると考えられる. 1979年から一人子政策以来, 中国では子供への過干渉の傾向があり, 両親が強く影響していると考えられる.

②仲間集団: Lau et al. (2005, 2006)の知見と一致し, 仲間集団が中学生のスポーツアイデンティティを規定することが明らかになった. 先行研究は青少年が仲間集団からの地位, イメージ, 反応などのフィードバックが親のフィードバックより重視され, 殆どの社会承認が仲間集団から得られると指摘されている (Lau et al., 2006).

③マスメディア: マスメディアも中国の中学生のスポーツアイデンティティを規定していることが明らかになった. 経済の発展に伴って, 専門のスポーツチャンネルが開発され, 中国全土で世界のスポーツに触れることができる環境が整った. したがって, 多くの青少年のスポーツに対する考え方に強く影響していると考えられる.

④学校: Lau et al. (2005, 2006)の知見と一致した. 中国中学校の教育現状は, 進学率を上げるために, できる限りスポーツをさせず, 他の学科の勉強をさせていることがではないかと考えられる.

⑤コミュニティ: 本研究では, コミュニティが, スポーツアイデンティティ形成を規定しないことが明らかとなり, Lau et al. (2005, 2006)の知見と一致した. 近年, 経済の発展に伴って, 中国の近隣関

係が希薄化し, 地域の人々が一緒にスポーツ参加しなくなっていると考えられる.

地域格差とスポーツアイデンティティ:

Lau et al. (2005, 2006)の研究によると, スポーツ施設は青少年のスポーツアイデンティティに影響をおよぼしていることから, GDPが高い都市はスポーツ施設の質と量がGDPの低い都市より優位であると考えられたが, 地域格差が認められなかった. Wu (1996)の研究によると, 中国で子供のスポーツ参加は性格の従順性, 学校の勉強, 知能の発達より重視されてないと指摘している.

スポーツアイデンティティとスポーツ参加:

本研究の結果は, Lau, Fox and Cheung (2005, 2006)などの研究結果と同様であり, スポーツアイデンティティが高くなるほどスポーツ参加率が高くなる傾向がみられた.

5. 結 論

- 1) 中国において, 両親が他のスポーツ環境要因より青少年のスポーツアイデンティティを最も強く規定している. また, 中国のマスメディアも中学生のスポーツアイデンティティを規定する力がある.
- 2) 地域格差(経済格差)は中国の青少年のスポーツアイデンティティの形成に影響するとは言えない.
- 3) スポーツアイデンティティはスポーツ参加の解明する指標になる.

(当論文は, 平成20年度順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の修士論文を基に作成されたものである)

参考文献

- 1) Lau, P. W. C, Fox K.R, and Cheung W. L: Psychosocial and socio-environmental correlates of sport identity and sport participation in secondary school-age children. *European Journal of Sport Science*, 4-3, 2005.

(平成21年3月31日 受付)
(平成21年3月31日 受理)